

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1923 号

Galantamine Response Associates with Agitation and the Prefrontal Cortex in Patients with Alzheimer' s Disease

(アルツハイマー病患者においてガラントミンの効果は易怒性と前頭前野血流に関連する)

中山 茶千子 (なかやま さちこ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、軽症アルツハイマー病(AD)のガラントミンの行動・心理症状(BPSD)および介護者負担への効果と、有効症例の特徴を検討したものである。軽度 AD 50 例に対し、ガラントミンを漸増しながら 12 週間投与し、治療評価項目として Mini-Mental State Examination (MMSE), 日本語版 Neuropsychiatric Inventory (NPI), 日本語版 Zarit Caregiver Burden Interview (ZBI) を用い、ベースラインから投与後 12 週における推移を比較した。また、投与開始時に脳血流 single photon computed tomography (SPECT) の撮影も行った。

投与前後で MMSE, NPI および ZBI の合計点数は有意な差は認めなかったが、詳細な検討を行うとベースラインに易怒性を有していた群は無い群と比較して、ZBI の合計点数が有意に低下をしていた。その 2 群で脳血流 SPECT 画像を比較すると、易怒性を有していた群では、右の前頭前野に血流亢進を認めた。軽度 AD で易怒性を認める症例、脳血流 SPECT にて右前頭前野の血流亢進を認める症例は、ガラントミン治療により介護負担が軽減する可能性が示唆された。

本研究は、AD 治療における薬剤選択の指針となりうる可能性がある。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。